

令和7年3月14日

学校法人相愛学園

理事長 相 田 芳 久 殿

令和6年度

学校関係者評価委員会 活動報告書

学校関係者評価委員会

代表 久保山 なぎさ

- 1 幼稚園の教育理念 建学の精神 『あかるく ころゆたかに』
 教育目標 1 じょうぶなからだに
 2 いのちをたいせつに（思いやりのある子に）
 3 やる気のある子に
 4 よく考える子に

2 本年度の重点目標

- 『主体的な子どもの姿を目指して』という研修テーマに沿って、様々な活動や遊び・生活の中から、主体的な子どもの姿を見つけ育てていく。
 ○園の良さをさらに伸ばしたり、課題解決したりするための方策を見つけていく。

3 自己評価結果について

評価項目	自己評価	
	評価	取り組み状況及び反省
教育活動や園行事の実施にあたり内容や実施方法が子どもにとって充実したものになっているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画や保育内容、ねらい等の立案の際は、子どもの成長や課題の共通理解を図りながら実施するよう心掛けた。 ・「園行事」については、内容の精選を図り、じっくり取り組めるようにゆとりのある計画を心掛けた。また、日々の保育の延長線上に「園行事」があることを心にとめ、それらを経験することで子ども達が自信を持てるよう適切に関わる努力をした。 ・他学年との交流を深める“縦割り活動”を継続的に取り入れた。当初は戸惑いを見せる子どもも見られたが、日常生活の中で接し方や言葉かけ等、子ども達が自然と学び、関わりも深まっていった。自由な遊びの時間でも、異年齢で遊ぶ様子もより多く見られるようになり良かった。 ・昨年度 ECEQ 研修を行い、“園の良さ・子どもの良さ”や“大切にしたいこと”“課題となること”等、確認し合ったことで、保育者一人ひとりが工夫をしながら保育に生かしていく現状が見られた。学びの環境を整えながら、次年度にはより研修効果が表れるよう、担任や級外職員も含め共通理解の下、体制を整えていきたい。
子ども一人ひとりの内面を育むよう、適切な指導・援助が考えられているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保育日誌や個人記録を振り返ることで、毎日の援助や指導の在り方を見直すとともに、その見取りや姿に合わせながら、その子らしさを引き出すように心掛けた。また、子どもの様子の伝え合い等も実施し、保育者が同じ思いで関わられるよう努力した。

		<ul style="list-style-type: none"> ・チーム保育を心掛けているので、級外職員との連携も必須となる。級外職員は勤務体制がそれぞれ異なる為、全員が集まっての話し合いは難しい面もある。自然に意見交換ができるような環境作り（場・時間）を今後も考えていきたい。 ・近年、様々な表れを持つ子ども達の割合が少しずつ増えてきている為、関わるタイミングや方法が非常に難しくなっている。個別指導計画の作成や市巡回相談・専門のカウンセラーに相談する等、体制を整えている。園側の思いと保護者の思いの違いや気持ちが不安定な保護者対応等も含め、引き続き慎重に対応していきたい。
<p>園内の施設設備・環境防災対策・感染症対策等が、子ども達が安心して生活できる施設設備環境となっているだろうか。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園内の遊具等は、年1回の専門業者による遊具点検を行いながら安全に努めている。ここ数年日常的な目視や月1回の担任保育者による点検を実施している。それにより遊具等に目が向くようになり、人任せにしないで対応するという点では良い傾向だと思う。 ・園内外の環境については、経年劣化の物で怪我をすることのないよう、計画的に整備を進め補修等で対応している。事故を未然に防げるような子ども自身の安全に対する意識も育てていかなければならない。（4月当初には集会の中で行うが、折に触れ、担任による遊具の使い方指導も必要である。） ・ヒヤリハットを記録し提出するようにしたが、提出が滞ることもあった。怪我をしやすい場所を知ることで防げる事故もあると思われるので、次年度は徹底していく中で危険場所マップ製作も考えていきたい。 ・学校保健安全計画に基づく防災避難訓練の定期実施や保健安全指導、食育までのトータルな視野で子どもの健やかな成長を守るための努力を怠らないよう努力をした。

☆協議・評価の観点

評価項目 1

一人一人の育ちを丁寧に捉え保育を進めているか。その中で子ども達は生き生き活動しているか。

評価項目 2

子どもの内面を育むような環境設定や指導・援助の工夫がなされているか

評価項目 3

園内の施設設備環境等、子ども達が安心して生活できる施設設備環境となっているか。

4 学校関係者評価委員会の評価・意見

評価項目1 についての評価

- ・評価委員会当日、全クラスの保育の様子を参観させていただきました。どの保育室も温かい雰囲気
の装飾で飾られ、その中で子ども達が幼稚園生活を楽しんでいる様子を感じました。また、先生方の一人ひとりへの声かけや見守る姿勢が、子ども達の思いを大切にしている様子を感じ取ることができました。縦割り活動を含め様々な保育内容を展開していましたが、教育の軸がしっかりしているので子ども達が年代ごと健やかに成長している姿が見られるのだと考えます。特に異年齢の関わりは、家庭ではできない学びとなるので継続して行ってほしいと思います。子ども達にとって有意義な園生活を送れるよう、より一層の努力を期待します。

評価 : A

評価項目2 についての評価

- ・多様な環境の現代社会の中で育つ子ども達なので、様々な表れがあり対応が難しいこともあることでしょう。子ども達との関わりの中で、互いに信頼関係を築いていくことが大切にしていきたいところ
です。子どもと先生、教職員間、保護者との連携・・・先生方が協力体制を整え、しっかりとした考え
を持ち指導援助が行われるよう願っています。個と集団をしっかり意識した上での適切な援助、その
為の教職員間の連携を深めていきながら、今後も子どもに寄り添った保育を展開していくことを望み
ます。

評価 : A

評価項目3 についての評価

- ・園内においては、セキュリティ、安全指導・管理、遊具点検等を通して、子ども達の安全な生活を保
障するものとなっていることは、保護者にとっても安心材料の一つです。経年劣化のサビや段差等、
修理改善を引き続き心掛けていきましょう。他に気になる点として、保育室の装飾など温かい雰囲気
で良いのですが、物が多く雑然としている箇所、棚の上に大きめな荷物が乗っている箇所等もありま
した。子ども達が一日過ごす保育室内の環境も互いに見直すことも必要かと感じました。また、ヒヤ
リハットの記録・確認・共通理解等、今年度不十分だった点を見直し次年度に繋げていくことを望み
ます。

評価 : B

令和 7 年 3 月 14 日

以上、学校関係者評価委員会全体の意見として、提出いたします。

令和6年度 焼津豊田幼稚園 学校関係者評価委員会

委員長

久保山 なぎさ 